

395 「裏切り者の葛藤と再生」 - すべてのアウトサイダーのために -
ルカの福音書 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

皆様、おはようございます。先ほど 司会の方が植物のことをいっぱい言ってくださって、さすが集会の植物係。私は花の名前は5つしか知らないの、凄いなと思いながら聞いてました。確かに、春というのは色んなことの始まりですよ。1月ではなく、年度制では4月がスタート。ということでプロ野球も今開幕シーズン。なんですが、私の大好きな阪神タイガースが大記録を打ち立てましてですね、開幕8連敗。どうしようもなく弱い阪神タイガース。

それを見るにつけ、約40年ほど前 どうしようもなく強い阪神タイガースがあった、ということをおぼろげに思い出さざるを得ないんですね。その時、外国人の助っ人でバースという選手がおったんです。絶好のチャンスでのホームランバッター。ボカスカ打って。バース・掛布・岡田の3連発、リアルタイムでテレビ見てたので今でも覚えてます。

バース選手、本当はバスと発音するんです。はじめ阪神球団から「あなたをバースと呼ぶことにします。あなたの名称登録はバースです」と言われた時、「え、誰のこと？ アメリカでバースと言われたこと一回もない。私はミスター・バス。なんでバースなん？」

タイガースの親会社は阪神電鉄です。が、阪神バスを系列会社で持ってるんですね。もしバースが全然打てないへなちょこバッターってことになると、スポーツ新聞は何と書きますか。“阪神バス 立ち往生”。もしバースが怪我したらどうしますか。“阪神バス 故障”。もしバースがバカスカ打ったら、“阪神バス 大爆発”。テロかよ！みたいな感じでしょ。

スポーツ新聞は必ずそういうのを茶化して見出しに書くから、株価にも影響するかもしれない。ということで、「悪いんだけど、ちょっと呼び名だけ変えてほしい。スペルはそのままでもいいから、悪いけど日本での呼び方を変えてほしい。」それでバースにしたんですね。

これは大人の知恵なんです。私たちはだれかと関係を持つ時、或いはだれかと関わりを持とうとした時、自分に迷惑が掛かって来ないように巧妙に距離を取る、という知恵があるんですね。打っても打たなくても、阪神バスに負担が掛かるようなことがあってはならない、ということで名前の呼び方を変えさせた。

今日私が紹介するイエス・キリストは、罪人と関わることでどんなに迷惑が掛かったとしても、或いはどんなに損害を被ることになったとしても、そんなこと全く意に介さなかった方です。人と関わることによってご自分の評判が落ちたり、批判されたりすることを全く気になさらなかった方です。そして、その人にとって祝福になることのみを着々と実行していかれた方なんですね。

イエス・キリストのことが分かったら、私の人生の中にまさに無くてはならない方だ、と確信するに至ったのです。そこで今日は、札付きの悪名高い人物にイエスが深く関わっていかれたという記事から、ご一緒にキリストの救いを考えたいと思います。

ルカ 19 章 1-9

- 1 それからイエスはエリコに入り、町の中を歩いておられた。
- 2 するとそこに、ザアカイという名の人がいた。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。
- 3 彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。
- 4 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。

ザアカイという取税人のかしらで、金持ちの人がいた。取税人のかしらはひと言で言うと反社（反社会的勢力）です。

ちょっと話は変わりますが、今ずっと国際情勢の中でニュース独占しているのはウクライナ戦争の事でしょう。これについては、来週水曜日 天満橋バイブル倶楽部でゆっくりお話ししようと思ってます。戦争が始まって 1 か月以上続いています。未だに出口が見えない。長期化すればするほど、戦場となっているウクライナはメチャクチャになる。それで、ウクライナは何とかして停戦交渉したい。今まで何回か停戦交渉していますが、その 1 回目と 2 回目はベラルーシでやりました。

ウクライナの代表とロシアの代表が停戦しようという話をするのですが、1 回目の時、ウクライナ代表の中にロシアのスパイが入ってたんです。ウクライナ人でウクライナの閣僚ですよ。だけど、ロシアのために働くスパイだった。今 目の前でどんなに酷い事が行われているのか知っているのですが、この人は確信犯で、ウクライナの情報をロシアに横流しするスパイ。それが政権の中核奥深くにまで入っているという。いやあ、恐ろしい時代だなと思いました。

ところで、裏切り者になる人ってどんな人でしょう。

なぜ人は味方を・仲間を裏切って、敵のために働く・敵の仲間になってしまうのでしょうか。実は人が裏切り者・スパイになるには大体 4 つくらいの理由があると、昔から言われています。

①お金。借金で困っている人が国を売る。ただお金持ちになりたいのではなく、借金で首が回らなくなり、返済で追い詰められている人。追い詰められているので、犯罪に手を出すことが唯一の解決だと思い込むとやってしまう。スパイの報酬で自分の借金を返済するために味方を裏切る。金。

②イデオロギー。ソ連崩壊の前、共産主義がものすごい勢いを持っていた時代がありましたね。“共産主義こそが人類を幸せにするんだ” という考えを持ってしまうと、報酬が無くても自発的に中国やソ連の共産党の手先・スパイになる。そんな人たちがたくさんいたし、今もいます。

③弱み。代表的なのはハニートラップ。「スパイとして協力しないなら、こんなに恥ずかしいことをやってるんだとばらすぞ」と脅されて、本当はしたくないけど自分を守るために国を裏切る。

だけど、ザアカイはこの 3 つのどれにも当てはまらないと思いますね。

大金持ちだから借金に苦しんでいるわけではない。それに、スパイは秘密でやるんです。

「俺、スパイやねん！」って、そんなスパイおれへん。スパイというのは、「こいつはスパイじゃないやろ。スパイはこんな隙だらけのハズがない」と思われる人こそ怪しいみたいですからね。

因みに、私は怪しい者ではありません。怪しい人ほど怪しくないと言うそうですが、私はほんとに

怪しくないので安心していただきたいと。

④所属している共同体に不満を持っている。ザアカイはこれですよ。

生まれ育った国で差別や冷遇、酷い目に遭わされ、こっぴどい目に遭わされて、社会に対して恨みを抱いている人。酷い事されたからし返してやる！ 怨念というか恨みというか。

これは金の問題じゃない。「よくもこんなに酷い目に遭わせてくれたな！ これは倍返しだ！」とばかりに、社会や共同体などを裏切って溜飲を下げる。スカッとする。

取税人は税金を徴収する仕事ですが、税務署勤務の方とは全然関係ありません。

当時のユダヤはローマ帝国に支配されていました。ローマ帝国は支配している人々から税金を搾り取りますが、ローマ人がそれをやると憎しみがいよいよローマに向かうので、ユダヤ人の中の裏切り者を募ってユダヤ人から徴収させたんです。

では取税人の給料、いくらだと思いますか？ ゼロです。ローマは取税人たちに一銭も払いません。じゃあ、ボランティア？ いいえ。一銭も払わないどころか入札制なんです。

ローマが「取税人になりたい者、いくらでこの権利が欲しいか」と入札するんです。

一番高い値段で取税人になる権利を買った人がなれる。つまり自発的。お金払ってでも取税人になりたいという連中がやってる。

なんでお金払って取税人になるのか。一度取税人になると、真っ当な税金徴収以外に、いくらでも言いがかりをつけて私腹を肥やすことができたからです。真っ当な徴税人じゃなくて不当な徴税人。橋渡るだけで税金ですよ。この道通ったら通行税。塩売ったら塩税。物品販売したら物品税。もし取税人に目を付けられたら、なんだかんだと言いがかり付けられてなんぼでも取られる。その時カーッとなって殴ろうとでもしたら、バックに付いているのはローマ帝国だから…。面従腹背するしかない。ユダヤ人たちは取税人に はらわた煮えくり返ってる。

取税所はイスラエルに3か所しかありません。カイザリヤ・カペナウム・エリコ。

エリコは聖書から見ると呪われた町。イエスは公生涯の中で、この時まで一度も足を踏み入れていませんでした。しかし、いよいよ十字架に掛かる直前、次エルサレムという直前、どうしても行かなければならない用事があったのでエリコに行かれたんです。いったい何でしょう？

ザアカイと出会うためですよ。

2 するとそこに、ザアカイという名の人が出た。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。

ザアカイは自分で入札して取税人になったのですが**取税人のかしら**。並みの取税人じゃない。

昨日今日 取税人になった新人じゃない。ある意味アクの強いアウトサイダーたち、ユダヤ社会からはみ出して生きることを何とも思っていない、はみ出し野郎たちのかしら。社会的規範を破ることに背徳感がなく、良心が壊れているような連中を束ねる人。かなり年季が入っている。

だから、人々から見たら、ザアカイは最も神の救いから遠い人。天国から一番遠くにいる人。キリストと一番関係がない人。「てめえら、人間じゃねえ」と昔 座頭市がありました、そんな感じ。

キリスト・聖書・聖さなどとは無関係に思える人物。

だけど、**3 彼はイエスがどんな方かを見ようとした。**

罪にふけっている時に正しい人や罪を裁く人を見ると、ちょっと離れて行きたくなりませんか？

毎年春に叙勲がありますが、警察官にもあるんです。すごく成果を挙げて出世したお巡りさんとか、新聞に人事異動など全部フルネームで出ます。何年か前に読んだのですが、交番勤務のお巡りさん、自転車泥棒の検挙数が彼 1 人で 1 年に 200 人。200 人も自転車盗る人いてるの?! いますよ。私クリスチャンになってから 10 台以上盗られました。もう嫌になっちゃう。

新聞記者が「どうやって捕まえるのか」とインタビューしました。通行人に挨拶するんです。例えば、通勤通学の時に「おはようございます。」やましいことのない人は「おはようございます」と、そのまま駅に行ったり歩いたりします。やましい人は、自転車で向かって来ているのに、お巡りさんが「おはようございます」と迫って行ったら、クルッと向きを変えて向こうに行き、中にはこける人もいます。「これ、あなたの自転車ですか？」というところで捕まるそうです。やましいと、単なる挨拶だけでも探られているような感じがして、そんなところに近づかない。遠ざかるうとする。

もしザアカイが、今までの人生の生き方を変えるつもりがなく、これからも社会への復讐心に燃えて、金を握って幸せになろうとしているのなら、イエスがエリコを通って行く時、家の中の一番奥に入って鍵かけて「早く過ぎ去ったらいいのに」と思うんじゃないですか。だって救い主ですから。神から一番遠くに離れているように見えたザアカイは、イエスが自分が住んでいるエリコに来ることが分かった時「どんな人か見たい。一目見てみたい!」と、なぜ思ったのか。

これを獲得したら幸せになると思って、その獲得に一生懸命人生を注いで来たけど、実際に獲得した結果「これじゃなかった…」と分かる時ってありませんか？ それが若い時ならやり直し利くけど。有名人になることが人生の成功だ！ 若くして有名人になったものの「ああ、虚しい。みんなは虚像の私を慕っているだけで、本当の私を知ったら誰も私のことなんか好きになってくれない。」

まだ手に入れていない時には「これさえ手に入れば私は幸せになるんだ」と思って、ある人はお金、ある人は名誉、ある人は人からの尊敬、ある人は大きな会社を作ることを目指し、色んなものを追い求めて、1 回しかない人生の体力・能力・時間を注ぎ込む。そしてそれを得た時「あれ？ 思っていたのと全然違う。それは私を幸せにしていない」ということが分かった時に、既にもういい歳になっていたら、「今更人生のやり直しが利くんだろうか。いや、もうここまで来たら…。」

ザアカイは取税人のかしらだから若造じゃないですよ。いい歳してるでしょう。しかし、金を得て、ローマをバックに権力握って、今まで自分を見下して来た奴らを見返して、そして人生は喜びに満ちると思っていたら、今自分が持っているのは あの世に持って行くことができないものばかり。俺の人生はいったい何だったんだろう。大事なものを全部注ぎ込んで献げて、しかも今の人生が内面的に行き詰まっているのを経験した時、変えたい。人生を。でも、どうやったらこの行き詰まりを突破できるのか、どうしたらいいのか分からない。

分からないけどザアカイは、イエスには何かあるんじゃないかと見てたんです。というのは、イエスには 12 人の側近の弟子たちがいますが、その 1 人は元取税人のマタイ。マタイの福音書を書いた人。マタイはカペナウムで取税人だったのに、今やイエスの側近になって喜びに溢れて生きている。マタイに何が起こったのか。なぜマタイの人生に刷新があったのか。

マタイの人生をどん底から喜びに変えることができたのなら、私にも同じことが起こるかもしれない。どんな方なんだろう。一度見てみたい。

3 彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることはできなかった。

当時のユダヤ人の平均身長は何センチだと思いますか？

ユダヤ人はミクベという身を清めるためのバスタブみたいな物を持っていました。

その深さから推測すると1メートル60センチ。俺でも大分高いほうや。イケルで、みたいな。

ザアカイはそれよりも低いんです。1メートル50センチか40センチ台かもしれません。

そんな彼が、イエスはエリコに入り、町の中を歩いておられたということでフーッと行くけど、「あ、ザアカイ来た」と後ろ足でピン！みたいな。「おまえなんかに見せてやるか！」日頃税金搾り取られているから、ここぞとばかりに意地悪して見せたらへん。

4 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。



これがエリコにある“ザアカイが登ったいちじく桑の木”。

ただし本物ではありません。

だって、もし本物やったら樹齢2000年じゃないですか。

この木は大体樹齢400年くらいじゃないかと言われていました。

この木を見るということで、私はエリコに10回以上行きました。もうええわと思うけど、見たい見たいと言う人がいてね。

いちじく桑の木は大木になるけど、幹が短くて、幹から1つ目の枝までがものすごく短いんです。杉みたいに高く伸びて上の方に枝が出るんじゃないで、幹からすぐに分かれて行くんですよ。なので、背が低い人にも登りやすい木なんです。

イスラエル旅行でエリコに来た人は皆、したいことがあるんですよ。

いちじく桑の木に登ってみたい！ せっかく来たし。枝にぶら下がっているところ記念撮影したい！

これ、全世界の人がやったんです。その結果、枯れ出したんですね。それで今は鉄柵で…。

ごめんなさい。これは別のです。いちじく桑の木で何十枚もあるんで…。

どれもイエス時代のものではないのですが、どれもこれも登れないように、近づけないように、鉄で柵をしてあります。

ザアカイはいちじく桑の木に登った。梅の木にホトトギスは美しいじゃないですか。

いちじく桑にザアカイ。一句湧きますか？ 湧いたら川柳になるんじゃない？

しかしザアカイは、何とかしてひと目イエスを見たいと思った。人生の転換を内心願っていたんです。

他の人は職業を見ます。今までの経歴、どんなことをやって来たかを見るんですね。

そんな外面的なことからザアカイを判断したら、神からこんなに遠く離れている人間はいてない。

こんなに神に無関心な人間はいてない。こんなにエゲツナイ奴はいてない。

救い主とは一番関係ない人間だ！ 外からはそう見えたかもしれない。しかし、彼の行動はそれを裏切っています。「イエスを見てみたい。」いちじく桑の木に登って、上から眺めていたんですね。

ローマ人は、自分の国家ローマ帝国にすごいプライドがありました。国家に対して忠誠を持つことに非常に高い評価を与え、そんな人間が理想的な人間だと思っているんです。

取税人はローマにお金を払い、その権利をもらって収税しています。ローマは彼らを使って税金徴収しているのですが、同胞を裏切っているので軽蔑し、内心バカにしていたんです。

誰からも尊敬されない仕事です。金はもらえるでしょう。だけど社会的に見たら、「そんなことに金使って取税人の権利買って。あんな人にだけはならんようにしいや！」という反面教師として話題に上ることはあっても、「あの人のようになりたいなあ」と目標にされるような人物ではない。

得るもの得て「ああ、違った…」という寂しさ・悲しさ・何とも言えない忸怩たる思い。

でも、マタイには喜びがある。そんな中で一目イエスを見たいと思っていた。

すると、ちょうどいちじく桑の木の本所に来た時、イエスが歩みを止めたんですね。

5 イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

イエスはここで3つ言葉を掛けました。一つひとつ考えていきましょう。

①「ザアカイ、」

ザアカイとイエスは初対面です。初対面なのに、イエスはザアカイのことを既にご存知で「ザアカイ、」と呼ばれたんですね。苗字じゃなくて名前部分なんですよ。

当時のユダヤ人には苗字がありませんでした。お父さんの名前が自分の名前になるんです。

2年前の コロナがまだそんなに広がっていない時、天満橋バイブル倶楽部という講演会を、大阪の OMM ビルで2か月に1回やってました。その時も時間になったので、「またお越しく下さい」と言って閉会したんです。

ところが、帰ろうとしない中年男性がいて、「もう終わってんのになあ」と思いながら。

そしたら、つかつかと私のところに来て「ごうちゃん、」と言ったんですよ。

“ごうちゃん”！ 懐かしい！ 私 高原剛一郎というんですが、少年時代は“ごうちゃん”と呼ばれていました。下の名前を呼ぶのは親しい間柄ですよ。

因みに、私の個人 YouTube チャンネルは“ごうちゃんねる”。チャンネル登録、よろしくお願いします。

「ごうちゃん、僕のこと覚えてる？」ん〜。「柔道部で一緒だったんだけど。」「あ、ハヤシ君？」

「マスダです」言われてね。もう面目ない。だけど、話していると次々思い出がよみがえって、「あん時楽しかったな。ああやったな。こうやったな」と話に花が咲いて。「YouTube 見てたら、キミが出て来たからビックリした。会いに来たよ。」

そんとき「高原先生」じゃないんですよ。「ごうちゃん、」40年前にワープしましたね。バーンて。

その呼び名で私を呼べるのは、昔から私のことを知っている人だけです。

少年時代・中学時代・青春時代を一緒に過ごした人は、その時の呼び名で呼んでくれます。

「ザアカイ、」と言った時、ザアカイはイエスと初対面だったけど、イエスは彼の今までを全部ご存知でした。人となられた神だからです。ザアカイは今 何に葛藤しているのか。

人生を転換したい、イエスを一目見たいと思って、いちじく桑の木にまで登ったけれど、目の前を通り過ぎようとするイエスに向かって、「イエス様、マタイを召したように、私にも…」と言う勇気はない。今までして来たことを思い返したら、散々悪の道を楽しんで来て、今この歳になって人生の転換…虫が良すぎる。そんな厚かましいこと言えない。だから、ただ一目見るだけでも。

でも本心は、イエスと語ってみたい。見るだけではなく、この方と語り合いたい。ザアカイの心の底にある本当の叫びを、イエスは聞いておられたんですね。だから、返事をするように「ザアカイ、」と言われたのです。

皆さんだって、他の人の評価と本当の自分が、ちょっとずれてるってことないですか？人からは、明るいか元気がいいとか、落ち着いているとか、社交性がないとか言われる。でも内側は、本当はそうじゃないということありますよね。イエスは内側の本当の部分をご存知で、ザアカイを愛して、真心込めて「ザアカイ、」

②「急いで降りて来なさい。」

もちろん「いちじく桑の木から降りて来なさい」ということなんですが、いちじく桑の木を見て分かるように、この木は大木で、低い所から枝分かれするので背が低い人も登りやすい。そして、もう1つ特徴があるんです。葉が密集、生い茂っている木なんですね。なので、この木に登ると身を隠すことができます。密集している葉に自分をうずめてしまうと、自分からは外の世界が見えるけど、外からは葉っぱしか見えない。

聖書には、罪を犯した人間が最初にしたことと、2番目にしたことが書いてあります。

創世記 3章

●罪を犯した人間が最初にしたこと。

7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。

そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

罪を犯したという罪責感を持つや否や、まず腰の覆いを作った。羞恥心が生まれた。恥ずかしく思った。それで、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

●罪を犯した人間が2番目にしたこと。

8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。

それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

罪を犯した時の2番目の木の利用法は身を隠す場所。いちじく桑の密集した葉の茂みの中に身を隠して、こっそりイエスを見ているザアカイ。

その彼に「急いで降りて来なさい。」隠れなくていい。神から逃れ、神に恐怖心を抱き、後ろめたい気持ちになって、コソコソ逃げ回る必要はもうない。

身を隠して、罪責感や恥じる思い。私は背いているんだ」という或いは負債感。やってはならない事をやって今まで生きて来た。過去は変えられない。どうしたらいいのか悔やむ心。自分を責め立てる思い。だから、人前に堂々と出ることができない。ましてや、救い主の前に胸を張って出られるような人生を生きていない。それで、いちじく桑の生い茂った葉の中に身を隠している。

しかし、「わたしの前では隠れる必要はない。急いで降りて来なさい。」

急いで降りて来なさいとは招きの言葉です。「わたしのところに来たらいいから。なぜなら、わたしは罪人を裁くために来たのではなく、救うために来たのです。さあ、急いで降りて来なさい。」

③ルカ 19:5 「わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

聖書の言葉を理解するためには、それが語られた文化的背景を少し知る必要があります。

日本でこれをやったら、ちょっとヘンなことになりますよ。

今日初めてこの集会に来られた方がいると思いますが、その方に向かって私が「今日、あなたの家に泊まることにしているから」と言ったら「勝手に決めんなよ」ってなるじゃないですか。

「人の都合考えんと、ナニ言うてんねん。非常識な人やわ」って。

ところが聖書を見ると、ユダヤ人が一番尊敬しているのはアブラハムですが、彼は突然やって来た旅人・客人を泊めることによって、神をもてなした人として記録に残っているんです。

中東世界で一番名誉なことは、旅人を迎え入れて客人としてもてなすことです。

泊めるということは一晩一緒に過ごすのですから。

私は高校卒業直前にクリスチャンになりました。卒業式が3月。クリスチャンになったのは多分2月。卒業まであと1か月しかない。とにかく、教えられたイエス・キリストのことをクラスメートに知ってもらいたい。言うて言うて言いまくって。

私の高校は修学旅行がないんです。2つ上の先輩が大問題を起こして、修学旅行がない高校。

なんで大問題を起こした先輩が修学旅行行って、何の関係もない後輩がそのあおりを食らうんねん。3年になった時、すごく団結したクラスだったので、卒業した時にハンドメイドの修学旅行やろうと積み立てやったんですよ。生徒たちで。

結局大したお金も積み立てられなかったんで、神戸の六甲山の1つに摩耶山（まやさん）という標高700メートルの山、ケーブルカーに乗ったら5分で頂上に着くという実にこじんまりした山があるんですが、そのてっぺんの所の宿泊施設に1泊2日。クラスメート42-43名の内30人くらい参加しました。みんな大学の進路決まってるんです。私 大学落ちたんですよ～。浪人！

みんな、〇〇大学・専門学校・看護学校・コンピューター学校、それぞれ希望があって。

私は一応学校は決まってたけど、大阪予備校という学校で大学じゃない。

予備校といっても、私立大学の1年分の授業料に匹敵するようなお金が掛かるんです。金が無い。

そこで産経新聞社と契約して、1年間新聞配達をするのでお金を前借りして授業料に充てる。

新聞社に奨学会というのがあって、そのオリエンテーションの日が卒業旅行だったんです。

で…、オリエンテーションをすっぽかしました。「2日目から参加するので勘弁してください。」

もう いっぱい言われたんですけど、このクラスメートたちにキリストを伝えるのは今しかないと思ったら、新聞社を説得して。

そして夜、みんなで一晩語り明かしたんですねえ。本当に楽しかったです。

気がついたらイエス・キリストのことを語ってました。フツと時計を見たら朝の4時半。

朝の4時半に下山しないと間に合わない。

行きは5分のケーブルカーで登れたけど、帰りは足で下山。3月。4時半。真っ暗なんですよ。外灯無い。右も左も上も下も、全部黒や。懐中電灯だけ持って、登ったことのない山道を、私ともう1人のクリスチャン男性と下山したんですが、途中で滑落してね、血だらけ泥だらけ。

「じゃあ行って来るわ」と出た時、語り合っていた連中が、寝てたらしいのにゾロゾロ付いて来るんです、途中まで。「高原、頑張れよ〜!」って。その時「この友達を絶対に失いたくない! 全員クリスチャンになってほしい! 永遠のいのち持ってほしい!」その気持ちが突き上げて来ましたよ。

西梅田の産経新聞の本社に行って、会議室に大体200人くらいいてるんですけど、泥だらけで入って、オリエンテーションの間爆睡しました。最悪や。

でも、一緒に泊まるって、こういうことやろなと思いました。ただ物理的に一緒に寝たというんじゃない。「あなたの家に泊まることにしている」というのは、「あなたと交わり、人格的交流をするとわたしは決めている。あなたの人生の色々な葛藤を聞かせてほしい。わたしはあなたの人生を変えることができる。新しくすることができる。」

6 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。

自分のほうから「イエス様、私と話をしてください」と言う勇氣はなかったけど、本心は「そうなたらどんなに良いだろう」と思っていた。自分が一番隠している本心をイエスは見抜いて、ご自分から申し出てくださった。こんなに私を理解してくださっている方がいたのか。しかも、この方はイスラエルの救い主ではないのか。

喜んでイエスを迎えた。エリコには他にも金持ちや有名人がたくさんいたでしょうが、イエスはそれらの人々をスルーして、最も名誉ある客人になるという特権を彼に与えたからです。つまり、受けるに値しない最高のプレゼントをイエスは与えてくださった。もう喜びが爆発して。

ところが、これがイエスに対する批判となって、エリコ中の不満が湧き出て来たんです。

7 人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。

文句を言った。前の聖書では「つぶやいた。」なぜ文句を言ったと訳したのか。文句を言ったから。今「つぶやいた」と言うと、ツイートしたみたい。そんなんちゃう。

「なんやこれ!」「あんな奴と付き合うなんて、おかしいんじゃないか!」ザアカイへの憎しみが深ければ深いほど、彼を庇ってその家に泊まりに行ったイエスに憎しみが向いた。ザアカイに向かっていた憎しみがイエスにストーンと。

イエスはその批判を全く気にしない。評判が落ちることも全く意に返さず、ニコニコしておられたでしょう。しかしザアカイは、自分を友として認め、このような者の家に泊まったためにイエスがバッシングを受けていると分かって、申し訳ないという気持ちと同時に、それでもニコニコ笑って満足気なイエスを見た時、心の変化が起こったのです。

8 しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」

旧約聖書の律法では、“もし人がだれかから物を騙し取った場合、1/5 を添えてそれを返却しなさい。”
100 万円騙し取って、それを返却する時は 120 万円返しなさいというルール。
ここでは「だれかから脅し取った物があれば（あるでしょ）、四倍にして返します。」
400%や。それやったら、いっぺん脅し取って～。超高利回りやん。そんな投資 どこにもない。

そして、「私は財産の半分を貧しい人たちに施します。」誰に言ったんでしょうか。
イエスに言ったと書いてないでしょ。主に言った。
この段階で「マタイの主。私にとっては客人イエス」ではなく、「私ザアカイの主」になってるんです。
彼は家の中にイエスを迎え入れただけではなく、心の中に自分の救い主イエス・キリストを迎え入れて
います。なので、信仰告白なんですね。「主よ、私は財産の半分を貧しい人たちに施します。」

間違っはほしくないのは、財産の半分を施し、400%償いをしたから、イエスはザアカイを愛した。
赦した。救った。…のではないんです。そんなことする前に、「わたしはあなたのところに行く。あ
なたと交わりをする」とイエスは決めてるんです。

世の中に色々な宗教がありますが、献金やお金の話を持ち出しているところは要注意ですよ。
イエスはそんなことは一切言われぬ。ここでも「俺のところを持ってこい」なんて言ってないで
しょ。彼は「イエスにお献げします」ではなく、自発的に「貧しい人たちに施します。」

このような変化は喜びがさせたんです。今までは喜びがないから、金があったら開いている心の穴
を埋めることができると思って、持てるだけの金を持ったけど、持てば持つほど虚しい。
嫌われ者になって、自分のことを案じてくれる人はいないと思っていたら、イエスが私を愛してく
ださった。喜びいっぱい、悔い改めのしるしとしてこれを申し上げたんですね。

9 イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのでから。
人々はイエスに文句を言いました。「あの人は罪人のところに行つて客となった。」

それに対する答えが、**10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」**
ここでは罪人のことを別の言葉に言い換えています。

聖書が言う罪人とは何でしょうか。取税人のような仕事に就く人でしょうか。それもそうです。
しかし、聖書が言う罪人は**失われた者**。神との関係を失っている人です。
皆さんが真っ当なご商売をなさっているとしても、あなたの造り主である神様との関係を失ってい
るなら、あなたは失われている人です。

なぜイエスは、今まで一度も足を踏み入れたことのないエリコに この時行かれたのか。
失われたザアカイを捜して救うために来たのです。彼のために来たのです。
アクシデントでこんな事になったんじゃない。「わたしのお目当ては罪人です。」

私は色々想像するんですね。ザアカイとイエス・キリストは家の中でどんな会話をしたのだろうか。
「ザアカイ、」「はい、主よ。」「あなたは家に迎え入れてくれたね。」「はい、主よ。」「
「だから今度は、わたしがあなたを父の家に迎え入れたい。あなたがわたしを自分の家に迎え入れ
てくれたように、わたしはあなたを神の家に・天国に・聖い聖い神がおられる父の家に迎え入れたい。」

